

一 (評論) 採点基準 (合計≒50点)

問一 5点

(解答) 二

問二 4点×2≒8点

(解答) X≒ハ Y≒イ

問三 4点×2≒8点

(解答) 口・ホ

問四 8点

(解答例)

※

A○1点

B○3点

地球人には、現在の人と未来の人との間に、未来になってもあまり変わらないと思われる

C○4点

多くの生活条件や生活形態が存在するから。(60字) (8点)

■各加点要素の加点の条件

※地球人にはが無いものは、以下の要素があっても全体※0点。

A 「現在の人と未来の人との間に」 (1点)

B 「未来になってもあまり変わらないと思われる」 (3点)

※Cが無い場合、加点できない。

○ 「現在でも未来でも共通すると思われる」のような表現でも可。

C 「多くの生活条件や生活形態が存在するから」 (4点)

△ 「多くの条件」や「条件が多く」だけでは△1点。また、「価値観は変わらない」とした場合も△1点。

問五 5点

(解答) 世代間相互性

問六 8点

(解答例)

A〇2点

B〇2点

西洋では、約束や契約という共時的な相互性だけが

拘束力のある倫理として見なされたが、

C〇2点

D〇2点

東洋では、倫理関係の原型を通時的な相互性のある

親子の世代間関係に還元するという試みが

行われた。 (88字) (8点)

■各加点要素の加点の条件

▲西洋と東洋の一方しか書いていないものは、得点を半分とする。

西洋では、

A 「約束や契約という共時的な相互性だけが」 (2点)

① 「約束や契約」、または「約束」か「契約」で1点。

② 「共時的な相互性だけ」で1点。

B 「拘束力のある倫理として見なされたが」 (2点)

○ 「拘束力」があれば得点を与える。

東洋では、

C 「倫理関係の原型を通時的な相互性のある」 (2点)

△ 「通時的な相互性」がない場合は△1点とする。

D 「親子の世代間関係に還元するという試みが行われた」 (2点)

○ 「親子の世代間関係」に言及していれば得点を与える。

▲東洋の共時的相互性を認めているものは、全体から2点減点とする。

問七 4点×2＝8点

(解答) 二・一・一

問一 2点×4＝8点

(解答) 1 超克 2 核心 3 裁定 4 破綻

問二 6点

(模範解答例)

A ○ 3点

B ○ 3点

永遠を生きる全知全能の神は、人間のように過去を思いつつ未来への希望と不安に悩むことがないから。

(48字) (6点)

■ 字数：五十字以内 二十四字以下のものは全体不可 (0点)

■ 形式上の不備

- ・ 文末表現：要素B参照／内容説明の結び「くこと」になっている場合は、要素B不可。
- ・ 句点の扱い：1点減点

■ 各加点要素の加点の条件

A 「永遠を生きる全知全能の神は」(3点)

- 神が全知全能で、過去・現在・未来のすべてを知っているということについて説明していること。
- 「全知全能であること」「過去・現在・未来のすべてを知っているということ」のいずれかの指摘があれば○。

B 「人間のように過去を思いつつ未来への希望と不安に悩むことがないから」(3点)

- 人間は過去から未来へという流れの中で悩む存在であるが、神はそうではないということについて説明していること。
- ✖ 説明していないものは要素B加点なし
- ✖ 「人間は過去から未来へという流れの中で悩む存在であるから」のように、「神はそうではない(神は思い悩む存在ではない)」の部分が抜けているものは不可✖。

(模範解答例)

A ○3点

B ○3点

C ○2点

ニュートンの考える永遠に均質な時間は、人間や自然の変化や発展を考えることを自明のことだとする現代人の常識に反するものであると考えているから。 (70字) (8点)

■字数：七十字以内 **三十四字以下のものは全体不可(0点)**

■形式上の不備

- ・文末表現…要素C参照／内容説明の結び「〜こと」になっている場合は、要素C不可。
- ・句点の扱い…1点減点

■各加点要素の加点の条件

A 「ニュートンの考える永遠に均質な時間は」(3点)

○ニュートンが永遠に均質な時間を想定したことを説明していること。

※説明していないものは要素A加点なし。

○「ニュートンは歴史的時間を排除している」のような表現でも可。

▲「ニュートンの「本質的には何んの変化も起らぬ惰性系」である時間は」のように、ニュートンの考え方の説明が引用のままになっている場合は▲2点減点

B 「人間や自然の変化や発展を考えることを自明のことだとする現代人の常識に」(3点)

○ニュートンとは逆に、現代人は変化や発展を考えることが常識になっていることについて説明していること。

※説明していないものは要素B加点なし。

C 「反するものであると考えているから」(2点)

○要素Aは要素Bに反したことであることを説明していること。

※説明していないものは要素C加点なし。

問四 3点 2 || 6点

(解答) 「故」.. 歴史的経験 (3点)

「数」.. 今の数量 (「今の数字」も可) (3点)

※ぬきだし問題のため、これ以外不可。

(解答) a 技術的理性(3点)

b 反理性(「非合理」も可)(3点)

※ぬきだし問題のため、これ以外不可。

問六 16点

(模範解答例)

A○4点

B○4点

全知全能の神の悠久の今を描く神話は、近代科学的思考で世界の今を数量化して把握しようとする啓蒙主義

C○4点

に代わられ、それが破綻した時にはフアシズムという非合理的な考え方が生じて人々はそれに陶酔するが、

D○4点

それらには歴史に学ぶという姿勢がなく危険だから。(120字) (16点)

■字数：百二十字以内 六十字以下のものは全体不可(0点)

■形式上の不備

- ・文末表現…要素D参照／内容説明の結び「〜こと」になっている場合は、要素D不可。
- ・句点の扱い…1点減点

■各加点要素の加点の条件

A「全知全能の神の悠久の今を描く神話は」(4点)

○神話の内容として、永遠の今が描かれているということを説明していること。

※説明していないものは要素A加点なし

▲「永遠の今」を「歴史を超越した」「歴史がなく」のように説明しているものは説明不足で▲2点減点。

B「近代科学的思考で世界の今を数量化して把握しようとする啓蒙主義に代わられ」(4点)

○啓蒙の内容として、今の数量化がされているということを説明していること。

※説明していないものは要素B加点なし

C「それが破綻した時にはフアシズムという非合理的な考え方が生じて人々はそれに陶酔するが」(4点)

○要素AとBのあとに、非合理的なフアシズムが台頭し人々はそれに陶酔するということを説明していること。

※説明していないものは要素C加点なし。

※「フアシズム」について、「非合理的」「理性的ではない」等の説明がなく、単に「フアシズム」として  
いるもの(「フアシズム」とはどういうものか説明していないもの)は不可※。

D「それらには歴史に学ぶという姿勢がなく危険だから」(4点)

○要素A・B・Cには歴史に学ぶ姿勢がないため危険であるということを説明していること。

※説明していないものは要素C加点なし

三 (古文) 採点基準 (合計50点)

問一 1点×3＝3点

(解答) ㉔ けしき                      ㉕ ひじり

㉖ ゆえ

■ 表記・字数

- ・ 三字以内・ひらがな・現代仮名遣いでなくてはならない。
- ・ 句読点不要 (不問)。

■ 各加点要素の加点の条件

- ㉔ ○ 「きそく」も正解とする。  
    ✕ 「きしよく・けいろ」などは✕。
- ㉕ ✕ 正解以外は✕。「ひぢり」なども✕。  
㉖ ✕ 正解以外は✕。「ゆゑ・ゆえん」なども✕。

問二 1点×5＝5点

(解答) ① ト (1点)                      ② イ (1点)                      ③ へ (1点)

④ ホ (1点)                      ⑤ ニ (1点)

問三 3点×3＝9点

(解答) 甲 二                      乙 口                      丙 八

問四 4点

(解答) 八

(1) 6点

(解答例)

A○1点

B○2点

C○2点

かねてからの望みどおりに 出家したのに、つくづく物思いにふけてばかりだ。

D○1点

仏道修行する様子もない。 (6点)

■各加点要素の加点の条件

A 「かねてからの望みどおりに」(1点)

※「本意のごとく」の現代語訳

○「望み」は「希望・願い・念願」等でもよい。

この場合、「かねてからの」に相当する表現の有無は不問。

○「かねてからの・以前からの・もともとの・もとからの・本来の」等があれば、「望み」は「意志・思い・想い」等でもよい。

※「かねてからの」等がない「意志・思い」等や「本意」のままになっている場合は✕。

※「どおり」は「～のように」等でもよい。

B 「出家したのに」(2点)

※「頭おろしてけれど」の現代語訳

① 「出家する」の意が読み取れば【1点】。

✕ 「出家」という表現がない場合は✕。

② 「出家する」の意がある上で、完了・過去の意「～た・～ってしまった」と逆接の意「けれど・が」等があれば【＋1点】。

○ 「剃髪して・髪を剃って」等の意の有無は不問。

C 「つくづくと物思いにふけてばかりだ」(2点)

※「つくづくとながめがちにて」の現代語訳

① 「物思いにふける・しみじみと物思いする・思い悩む」等の意が読み取れば【1点】。

② 右の意がある上で、「つくづく・～しがち・～してばかりだ」等や、「とても・たいそう・ひどく・非常に」等、程度(甚だしいこと)を意味する表現があれば【＋1点】。

✕ 「しみじみと」は「つくづく」に相当しない。

D 「仏道修行する様子もない」(1点)

※「勤め行ふこともなし」の現代語訳

○ 「仏道修行しない」の意が読み取ればよい。

○ 「仏道修行しない」は「勤行／修行しない」でもよい。

✕ 「仏教」の意が読み取れない「お勤め・行い」等は✕。

(2) 4点

(解答例)

A〇2点

B〇2点

臨月を迎えた 女を俗世に残してきたことが気にかかってならなかったから。 (4点)

■各加点要素の加点の条件

A「臨月を迎えた」(2点)

○「臨月を迎えた(臨月である)ことが気になったから」の意が読み取れれば【2点】。

○「臨月」は「産み月(産月)・出産する(子を産む)時・子を生む予定の時期・もうすぐ子が生まれる」等でもよい。

△右の意がなく「妊娠(懐妊)している・子を身籠もっている・子を生みそうな・子が生まれそうな・子を生む予定の」等、妊娠の意はあるが臨月の意が読み取れない場合は【1点】。

B「女を俗世に残してきたことが気にかかってならなかったから」(2点)

○「女のことになりから」の意が読み取れればよい。

○「女」は「妻」でもよしとする。

○「俗世(都)に残してきた・見捨てた・残して出家した」等の意の有無は不問。

○「俗世のことは思い捨てたが」等の意の有無は不問。

○「(お腹の)子が気がかり」の有無は不問。

問六 6点+4点=10点

(1) 6点

(解答例)

A〇2点

B〇4点

自分以外の誰かが 東宮に親しく仕えてほしくない、ということ。 (29字) (6点)

■表記・字数

・三十字以内。

・文末表現指定なし。解答例に準ずる。

・句読点の有無不問。

■各加点要素の加点の条件

A「自分以外の誰かが」(2点)

※要素Bが0点の場合は、要素Aは得点できない。

○「自分以外の誰か」は「自分以外の者・人・他の人・他人・他の臣下」等でもよい。

△「自分以外の」の意はあるが、人物の説明が「使用者」等、適当でない場合は【1点】。

B「東宮に親しく仕えてほしくない、ということ」(4点)

①「親しく仕えてほしくない・親しくしないでほしい」等の意が読み取れれば【2点】。

②右の意がある上で、「東宮に」の意もあれば【4点】。

○「東宮」は「親王・居貞親王・居貞・三条院・三条帝・三条天皇」等でもよい。



(2) 4点

(解答例)

A〇1点

B〇3点

出家して、東宮に会えなくなったこと。(18字)(4点)

■表記・字数

- ・二十字以内。
- ・文末表現指定なし。解答例に準ずる。
- ・句読点の有無不問。

■各加要素の加点の条件

A「出家して」(1点)

○「出家して・出家後」、または「山(奥山)に入って」の意があれば【1点】。

○要素Bが0点でも「出家したこと・山(奥山)に入ったこと」の意があれば【1点】得点できる。

B「東宮に会えなくなったこと」(3点)

○「東宮に会えない・東宮と離れた」等の意、または「東宮が忘れられない・東宮に仕えたことが懐かしい」等の意が読み取れば【3点】。

○「東宮」は「親王・居貞親王・居貞・三条院・三条帝・三条天皇」等でもよい。

○「人々との交流が絶えた・俗世の人との交流が絶えた」等の意の有無は不問。

問七 6点

(解答) 二

問八 1点×3＝3点

(1) 1点

(解答) 口 (1点)

(2) 1点×2＝2点

(解答) イ・ホ

四 漢文 50点

問一 2点×4＝8点

(解答) a いよいよ b たちまち

c と d あたわざるを

「採点のポイント」

△歴史的かなづかいは△1点

例 d あたはざるを・・・△1点

※仮名不足

例 a 「いよ」…×0点 b たちま…×0点 d あたわざる…△1点 あたわず…△1点

問二 4点×2＝8点

1 (4点)

A ↓ B ○2点 A ○2点

(解答例) 今にも 日が暮れ そうになり (4点)

「採点のポイント」

A 「今にもくしそうだ」(2点)

○ 「今にもくしそうだ」の要素に2点。

B 「日が暮れる」(2点)

○ 「日が暮れる」「陽が沈む」の要素に2点。

3 (4点)

A ○2点 B ○2点

(解答例) 自分の国の安定を 保つことができず (4点)

「採点のポイント」

A 「自分の国の安定を」(2点)

○ 「国の安定」の要素に2点。「自分の国の」の要素はなくとも可

B 「保つことができず」(2点)

① 「保つ」に1点。

② 「できる」に1点。

問三 4点

(解答) ニ (4点)

問四 6点

A○2点

B○2点

C○2点

(解答例) 同行の友人らで 私のもの好きな失敗を、非難しないものはいない。(6点)

「採点のポイント」

A 「同行の友人らで」(2点)

○ 「友人ら」「友人はみんな」「仲間の誰もが」「一緒に登った人」「同行した人」なども可。

△ 「多くの人(人々)」は1点。

△ 「どんな人でも」「誰もが」「みな」のように抽象的なだけで、「同行者」「友人」の内容がないものは▲減点  
1点で△1点。

B 「私のもの好きな失敗を」(2点)

① 会話文なので本来は「私」と答えるべきだが、「筆者」「高啓」も可とする。(1点)

② 「もの好きな失敗」は「好奇心からの失敗」などでも○。(1点)

C 「非難しないものはいない」(2点)

○ 「非難しないものはいない」は、「誰もが非難している」でも可。

○ 「とがむ」は「非難する」「批判する」「諫める」「注意する」などで可。

△ 「とがめる」のままは▲減点1点。

✖ 「ばかにする」などのずれは✖0点。

問五 4点

(解答) ホ (4点)

問六 3点×2＝6点

(書き下し文)

(解答) ハ (3点)

(現代語訳)

(解答) イ (3点)

問七 6点

(解答) 恐<sub>レ</sub>盛<sub>二</sub>衰<sub>一</sub>之不<sub>レ</sub>常、離<sub>レ</sub>合之難<sub>レ</sub>保也

〔採点のポイント〕

○返り点一か所2点。

▲誤りは一か所減点1点。

▲送り仮名も施した場合：何か所あっても減点3点

問八 8点

(解答) ホ (8点)